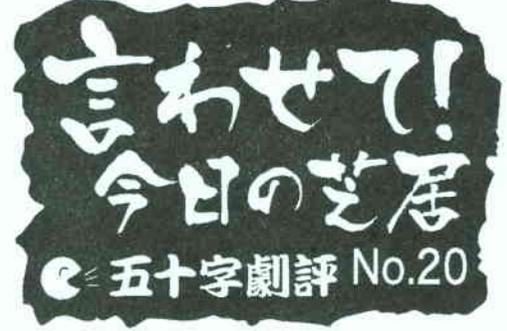


銀の滴 降る降る まわりに ～首里 1945～ (文化座)



構成力ある力強い芝居。 (女性)

【六〇代】

▼戦争・軍隊・沖縄・アイヌ・差別：七〇数年前の話として片づけられない思いで観た。今、日本は戦争のできる国へ大きく舵をきった。民主主義国家とは思えないあらゆる権力を駆使して。反対する者は力づくで抑えこむ。異論は許さず、認めず、恫喝する。そしてマスコミは真実を報道できなくなった。だからこそ『個』が声を出す勇気と行動が求められているのではないだろうか。手遅れになる前に…。 (男性)

▼沖縄の現状を憂えています。この芝居は現在にも繋がっている。東京から離れた場所や人を下におくような。 (女性)

▼沖縄のおばあは、愛さんにぴったりでした。声もすっかり後方まで聞こえ感動しました。戦争当時の軍の横暴さはたびたび聞きますが、今回は方言で話すとスパイとみなす、なければ盗んでこいなど、人間扱いされていないように感じ

ました。爆撃機・砲弾などの音には、心臓が止まるかと思うほどの衝撃でした。 (女性)

▼偏見やいがみあいなど、改めて戦争の悲惨な実情を感じました。役者の素晴らしい作品でした。 (女性)

▼この芝居で一番関心を持ったのは、人を人でなくしてしまう極限状況の中で、果たして人は心と心を繋ぎ互いを認め合うことができのかという事。炊事兵という後方から戦争の実態を巧みに捉えている。佐々木愛さんの存在感は抜群。 (男性)

▼アイヌ、沖縄、日本人、兵隊、民間人等それぞれの対立、差別、和解とテーマが多すぎて消化不良。愛さんのおバアはステキでした。 (男性)

▼「戦場に家族がいるんだ」の一言が胸につきささりました。今に続く沖縄の人々のことを痛切に思いました。 (女性)

▼アイヌの人が沖縄戦で炊事兵として戦った事は、知らず衝撃でし

た。イトさんが「息子なんだから一緒に逃げよう。」のシーンには、涙があふれました。文化座の神髄を感じたお芝居でした。 (女性)

▼沖縄戦がリアルに表現されている。戦争物は好きではないが、軍隊の中の差別がきつとあったと思う。よく出来ていると思いました。 (男性)

▼あの当ても今も沖縄の現実は大変つらい。事実は小説よりも奇なり。許せない！おじいおばあの行動に頭が下がる。 (女性)

【二〇代】

▼アイヌ民族が北海道の先住民族と認められたのは、わずか二〇年くらい前のこと。アイヌ民族の生き方すべてを奪った倭人である我々は、その歴史の上にこの地で暮らせていることを忘れてはならない。着眼点が新鮮で、おもしろい劇でした。 (女性)

【五〇代】

▼戦闘現場でなく炊事班としてのつらさ・苦しさ、様々な民族の思いと、個人の思いがからみあう





▼民族差別、軍の横暴は許されるものではない。沖縄、苛烈で悲惨で無慈悲なものだったのだろう。想像力を持って考えたい。この芝居がきっかけをくれた。(男性)

【七〇代】

▼佐々木愛さんのおばあが秀逸！沖縄のおばあに逢いに行きたくなりました。アイヌの方々の辛さ、胸が痛みました。(女性)

▼戦争の惨さ、人種差別とは。それと銃を持たない食糧班の大変さ。戦争は二度とあってはいけない。音響迫力は凄。(女性)

▼「愛さん」ますますお母さんそつくり。お会いする度そう感じる。安心して観ていられる。すごい。(女性)

▼出演の皆さんを舞台に呼び戻し、もっと拍手を送りたかったのに。あつさり席を立つ会員たちにかっかり。「劇」にたいしてのものではないのですが。佐々木愛さんに、この先もお元気で頑張ってほしいと伝えました。(女性)

▼人と人の差別や偏見の先に暴力や戦争がまかり通る社会があるのか、と再認識させられた。お芝居の力を感じた。(女性)

▼戦争中は軍の横暴で多くの犠牲者を出し、今も日本政府とアメリカ軍に土地を奪われている。軍隊は不要です。フクロウは、沖縄に生息していませんよね。(女性)

▼むごい日本の軍隊が、さらつとも描かれていました。沖縄の人々の心、強さも分かりました。この舞台に聞こえていたふくろうの声がとても良かった。(女性)

▼佐々木愛さんが沖縄の「南北の

塔」を訪れたことがきっかけとなり「銀の滴降る降るまわりに」が生まれたという。なんとすごい劇団なのだろう!!現在私たちが抱える沖縄の問題、アイヌの人たちの問題の原点ともいうべき点がしっかりと抑えられている70年前の沖縄戦が舞台。しかし、兵士たちの一言、ひとこと、おじいちゃん、おばあ

の温かい言葉の向こうに、今、沖縄(辺野古や高江)でこぶしをあげている人たちへの想いが湧いてこずにはいられなかった。佐々木愛さんのおばあは沖縄の明るく、強いおばあであった。踏まれても踏まれても先祖からもらった土地を、自然豊かな沖縄を子孫に伝えていくことがおじいちゃんやおばあちゃん生きていく道と歌って踊ってはねかえす。この作品を通して沖縄とアイヌの人たちの深く重い歴史を学んでいく人が一人でも多く広がっていくことを願わずにはいられない。「其の昔此の広い北海道は、私たちの先祖の自由の天地でありました」『アイヌ神謡集』序より

50字劇評「言わせて!今日の芝居」に投稿を!

ここは、会員が「芝居を自由に語る場」です。率直な感想をお寄せください。

- 署名 “不登”です。ただし、編集の都合上、「男」・「～歳代」だけは記入を!
- 字数 “50字”です。多くの会員の声を掲載したいからです。ご理解を!
- 締切 3月31日(金)

編集スタッフから
2月例会いかがでしたか。
50字にこだわらずにキュッと一言・二言でも感じた思い発信してください。(辛口大歓迎)
劇評が演劇をステキにする!